多胡宏音 マリンバ・リサイタル 2026

マリンバを通して、作品とその魅力を「再考・再発見・再解釈」する新シリーズ

Hirono Tago Recital Series

Re: Marimba

vol.1 "昇華" sublimation

12.9 (Wed)

19:00 open 18:30

渋谷・富ヶ谷

Hakuju Hall

東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5

作曲家たちは
マリンバをどう

昇華

させたのだろうか？



邦人作曲家による
マリンバのための
傑作選

Japanese original repertoire
for Marimba

三善晃《トルスIII》
Akira Miyoshi (1933-2013): *Torse III* (1968)

湯浅譲二《マリンバのための音楽》
Joji Yuasa (1929-2024): *Music for Marimba* (2006)

池辺晋一郎《モノヴァランスIV》
Shin-ichiro Ikebe (1943-): *Monovalence IV* (1975)

一柳慧《パガニーニ・パーソナル》*
Toshi Ichiyanagi (1933-2022): *Paganini Personal* (1982)

三木稔《マリンバの時》
Minoru Miki (1930-2011): *Time for Marimba* (1968)

久石譲《揺れ動く不安と夢の球体》**
Joe Hisaishi (1950-): *Shaking Anxiety and Dreamy Globe* (2014)

柴田南雄《マリンバの為の像》
Minao Shibata (1916-1996): *Imagery for Marimba* (1969)

助演
* 石田千飛世　Chitose Ishida　piano
** 永井晴二郎　Seijiro Nagai　percussion

チケット　9/11(金) 発売　全席自由

一般 ¥4,000　U29 ¥2,000　(税込・当日券各500円増)

※未就学児童の入場はご遠慮ください。
※U29をご購入の方は、公演当日に年齢が確認できるものをお持ちください。確認する場合がございます。
※やむを得ない事情により、内容に変更が生じる場合がございますが、助演者・曲目変更などのために払い戻しはいたしませんので、予めご了承願います。

お問い合わせ　050-1721-3914　pndproject.contact@gmail.com

ARTS COUNCIL TOKYO

公演詳細はこちら

主催：多胡宏音　共催：pnd project　助成：公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京［スタートアップ助成］　公益財団法人榎本文化財団
協力：株式会社ヤマハミュージックジャパン　協賛：ブルーマレット株式会社　ジャパン・パーカッション・センター　後援：日本打楽器協会　(特非) 日本現代音楽協会

Re: Marimbaは、マリンバという楽器を通して、作品とその魅力を
あらためて「再考・再発見・再解釈」するシリーズです。
作品との新たな出会いを生み、その魅力を未来へと
つないでいきたいという思いを込めました。

多胡宏音 マリンバ・リサイタル 2026

Re: Marimba vol.1 “昇華” sublimation

Hirono Tago Recital Series

Re: Marimba

vol.1 sublimation

昇華

2026
12.9 (Wed)
19:00 open 18:30

渋谷・富ヶ谷
Hakuju Hall
東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5

チケット　9/11(金) 発売　全席自由

一般 ¥4,000　U29 ¥2,000　（税込・当日券各500円増）

プレイガイド
- イープラス https://eplus.jp/
- チケットぴあ https://t.pia.jp/（Pコード：337-028）
- webサイト https://hironotago.com
  → 予約フォームにご記入いただき、当日精算・引き換えとなります。

お問い合わせ　050-1721-3914　pndproject.contact@gmail.com

多胡宏音

アフリカで生まれ、奴隷貿易と共に中南米に伝播し、20世紀にアメリカを経て世界へと広がったマリンバ。戦後日本にもたらされたこの楽器は、独自の表現を育みました。演奏技術の発展とともに、オリジナル作品も数多く生まれ、その歩みはやがて「ジャパニーズ・マリンバ」と呼びうる一つの文化へとつながっていきます。

日本の作曲家や演奏家たちは、マリンバにクラシック音楽における「独奏楽器」としての可能性を見出し、その魅力を新たな表現へと昇華させたのです。そこには、それぞれの時代の美学や作曲家の思想、そして演奏家との出会いが息づいています。

シリーズ第一弾「昇華」では、マリンバが日本でどのように受容され芸術音楽の楽器として発展してきたのかを辿ります。

一つの作品は、演奏者や聴き手によって、何度でも新しい表情を見せてくれます。それぞれの作品に込められた作曲家の世界に耳を傾けながら、「ジャパニーズ・マリンバ」の歩みと、その豊かな響きをお愉しみください。

音楽が、少しでも皆様の心に触れるものでありますように。

多胡宏音　Hirono Tago　打楽器・マリンバ奏者

その深い音楽性と作品への鋭い洞察力に裏打ちされた表現力により、国内外で高い評価を受けている。国際コンクールでも受賞を重ねるなど、安定した柔軟な技術と音楽性は高く認められている。彼女の演奏から感じられる何よりもの魅力と可能性は作曲家の思想、哲学、時代背景を通して、真摯に果てしなく深みを探す貪欲なまでの音楽への情熱であり、自身と音楽との関係を探求するその表現は、聴く者の心に深い感銘を与えている。

2023年南カリフォルニア国際マリンバコンクール第1位受賞。2020年第1回ポレンサ国際マリンバコンクール第2位。

現在は東京を拠点に、ソロや室内楽を中心に演奏活動を展開。Duo Mujō、+81 Confluenceのメンバーとしても活動するほか、若手作曲家への作品委嘱やレコーディングにも積極的に取り組み、現代における作品創造と発信に携わっている。2025年には東京文化会館、京都青山音楽記念館でのパーカッション・ソロリサイタルを開催し、反響を呼んだ。また、アルゼンチンで開催されたパタゴニア国際打楽器フェスティバルに招聘され、リサイタル、マスタークラス、オーケストラとの共演によるコンチェルトでソリストを務めた他、ドイツでのマスタークラス開催など、その活動は多岐にわたる。

東京都杉並区生まれ。14歳から打楽器を始め、第16回日本ジュニア管打楽器コンクール金賞など、多くの受賞を果たし頭角を現す。打楽器初のヤマハ音楽支援奨学生。日本演奏連盟主催第30回新進演奏家育成プロジェクトオーケストラ・シリーズに最年少で合格し、仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演。国立音楽大学を経て、ドイツ・カールスルーエ音楽大学大学院修士課程及び国家演奏家資格取得課程を最優秀の成績で修了。パリ国立高等音楽院、並びにリヨン国立高等音楽院でも学ぶ。



石田千飛世　Chitose Ishida　piano

一柳慧《パガニーニ・パーソナル》助演

千葉県出身。東京藝術大学修士課程作曲専攻在籍。作曲を野平一郎、鈴木純明の両氏に、ピアノを居福健太郎氏に師事。学内にて長谷川良夫賞、同声会賞を受賞。令和7年度奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第2位。作品は国内外で演奏されている。ピアノではソロ活動に加え、オペラ伴奏や歌曲、新曲初演、タンゴなどジャンルを越えて精力的に取り組んでいる。2023,24年ラ・フォル・ジュルネTOKYOに出演。

2021年度青山音楽財団奨学生。2023,24年度福島育英会奨学生。

2025～26 年にかけてカールスルーエ音楽大学リートデュオ科に留学し、リートデュオピアノ白井光子、ハルトムート・ヘルの両氏に師事。



永井晴二郎　Seijiro Nagai　percussion

久石譲《揺れ動く不安と夢の球体》助演

ダルムシュタット国際現代音楽講習会に参加するなど現代音楽に意欲的に取り組み、多くの新作初演プロジェクトへ参加している。室内楽奏者として欧州の芸術祭や演奏会、レコーディングへ参加、出演。京都にてソロリサイタルを開催。現在は南西ドイツの主要オーケストラへ客演し、活動の主軸としている。

大阪市出身。6歳よりマリンバを始める。京都市立芸術大学音楽学部音楽学科管打楽器専攻を首席で卒業、市長賞ならびに真声会賞を受賞。現在、カールスルーエ音楽大学大学院に在籍。Duo Mujō、+81 Confluence 各メンバー。